

# 「ジェンダー主流化」の取組に関する座談会（開催概要）

## 経緯

国土交通省では、共生社会実現の一環として、行政やサービスを提供する側が男女の異なるニーズを理解して政策やサービスに反映していく「ジェンダー主流化」の取組強化の第一歩として、地方運輸局長による座談会を開催。

近畿においては、基調講演並びに関西地方の運輸観光分野等で活躍する方々と意見交換を実施した。

- ・日時：令和7年2月7日（金） 13:30～15:30
- ・場所：ホテルグランヴィア大阪 鳳凰A

「ジェンダー主流化」とは、社会的・文化的な性差（ジェンダー）の平等実現を目的として、男女で異なる課題やニーズを踏まえて、あらゆる政策や事業などを立案・実行していくこと。

## 参加者

- （学識者） 追手門学院大学 経済学部経済学科 准教授 長町 理恵子  
（事業者等） 南海電気鉄道株式会社 まち共創本部泉北事業部 部長 今中 未余子【鉄道】  
神姫バス株式会社 バス事業部計画課地域公共交通担当課長 清瀬 真紀子【バス】  
株式会社山手モーターズ 代表取締役 大久保 恵美【タクシー】  
株式会社シーガル 取締役 松本 久美【トラック】  
加藤汽船株式会社 船長 吉田 ルリ子【旅客船】  
株式会社淡路島観光ホテル 代表取締役 上村 早苗【旅館】  
認定特定非営利活動法人 マイマ・セラピー 理事長 押栗 泰代【ユーザー】  
株式会社インプリージョン ツーリズム事業部プロデューサー 森 なおみ【ユーザー】  
一般社団法人滋賀県タクシー協会 専務理事 松尾 武文【事業者団体】  
（行政） 近畿運輸局長 岩城 宏幸、神戸運輸監理部長 臼井 謙彰



## 基調講演／長町准教授（追手門学院大学）

- ジェンダー主流化が求められる背景には、日本経済の成熟化、少子高齢社会による人手不足、多様な価値観などがあり、女性・高齢者・障害がい者などが潜在的な労働力として期待されている。
- 交通分野の特徴・課題は、「男女で異なる移動パターン」「女性の移動に伴う安全・安心」「男性優位の交通部門」「女性の就業者が少ない」等である。そのため交通分野におけるジェンダー主流化では、特に女性が注目されている。
- ジェンダー主流化に必要なことは、「交通分野を取り巻く経済・社会の現状への理解」「性別に関わらない具体的な取り組み」「潜在的な労働力（女性等）の活躍」「ジェンダー主流化のメリットを理解する」ことである。
- 交通分野で男女問わず働き方の選択肢が増えることは、潜在的な労働力（女性）を活かし、地域活性化の近道になる。

## 取組報告・意見交換

### <女性の顧客へのサービス>

- ・現場（営業所）の男性社員の発案による高速バスの女性専用シートの試験運用開始（2024.12～）「女性優遇施策」との意見があったが、あくまでも「防犯」として継続【バス】
- ・安全・安心な日本のタクシーは女性が一人でも利用できるシェルターの役割を果たしており、真の移動の自由が守られている【タクシー】
- ・荷物を運ぶ女性ポーターを採用したことにより、サービスの柔軟性や多様性を示し顧客の信頼性を高めている。【旅客船】
- ・女性利用者への安全安心の提供として、船内への監視カメラ及び待合室に授乳室を設置【旅客船】
- ・「ゆりかごタクシー（妊産婦を産院まで安全に輸送するシステム）」は、団体、医療機関、自治体、国など、多種多様な組織がつながってできた事業で滋賀県特有のモデルとして2013年10月から始まり、現在まで10年を超えて運行【ユーザー】

### <女性経営者・幹部を活かした取組>

- ・結婚や配偶者の転勤等で離職した元社員を「カムバック採用」する制度を導入（2023.9～）し、柔軟な働き方を提供【鉄道】
- ・女性従業員の子育て期間を大切にするために休館日（年間67日）を設けている。将来的には週休2日を目指す。【旅館】
- ・ホテルは全従業員の1割が外国籍であり、年齢層も幅広い。個人単位での相互理解と能力に合ったマネジメントが必要【旅館】

### <女性従業員の増加の取組>

- ・女性役員等とのワークショップや中堅クラス的女性を対象とした本音トークの実施、女性専用の健康相談窓口の設置【鉄道】
- ・タクシー業界は働き方が多様で賃金に格差が無く、勤務シフトも自由で家庭での子育てや介護しながらでも働ける。女性ドライバーの安全確保が課題【タクシー】
- ・今後休憩室を別に設置する等女性に配慮した環境を整えていきたい。産前産後休業後の仕事への復帰方策が課題【トラック】

### <ユーザー視点>

- ・男性利用者は定時運行など数値化できる事項に関するご意見が多いのに対し、女性利用者は、サービスの細部や安全性及び車内の清潔さなど数値化できない事項に対するご意見が多い。【バス】
- ・パーソナルスペースを大事にする女性にとって、女性専用車両は「特性に合った平等」である。【ユーザー】
- ・鉄道などの交通機関は安全が守られていることで楽しんでおり、その上に観光があることを女性や国交省の目線で全体に発信していくことが大切【ユーザー】
- ・女性の「嫌だな」はマーケティングに活用できる。女性は男性よりも敏感に顧客の機敏な変化を営業サイドに上げてくれるので、それが営業に生きている。【旅館】

## 総括（学識者・行政）

- ジェンダー主流化と多様性の確保で重要なのは、異業種、NPO、自治体などの連携と相互理解。企業にとって利潤は重要だが、企業の経済活動が社会全体の効率化や成長につながっていくことが重要。【学識者】
- 男性中心の現場には限界があるので、それぞれの様々なニーズを踏まえて行政を推進しなければならない。また、ジェンダーのみならず国籍も含めた広い視線で行政は議論していかなければならない。【行政】
- 行政としてのジェンダーへの意識不足というより、勉強が足りないと強く感じた。我々が当たり前と思い通り越していることを、もう1回考えてみないといけない。うちの職員にも皆様の声を届けて勉強させていただく。皆様には各界のリーダーとして今後も発信していただきたい。我々も皆様から知恵をいただき発信させていただきたい。【行政】

